

AIからのレポート

Prompt: 大手の学習塾で講師の育成を担当している専門家（インストラクショナル・コーチ）が、新人講師の模擬授業を観察評価する際の診断項目です。模擬授業の映像とトランスクリプションした音声から、次の診断項目と評価基準に従って評価を行なってください。診断項目は15項目あり、それぞれ3段階で評価します。

総評

提供された映像トランスクリプション（00:00 – 24:24）と詳細な映像分析をもとに、診断項目表の各項目について判定を行いました。判断できない項目は「判定不可」と記載します。各評価は「評価3（良い）／評価2（やや改善）／評価1（要改善）」のいずれかです。該当する発言や動作の根拠となるトランスクリプションのタイムスタンプを併記します。

1. 講師の立ち位置や姿勢

- ① 黒板やホワイトボードの前での立ち位置：評価3
根拠：映像分析で講師が黒板前の中央～やや右・左を適宜移動し、板書や図を示す際に的確な位置に移動している（例：00:21 指示、01:42 – 01:54 板書、10:51 – 11:00 指示、13:36 ～ 13:54 席を移動して消去）。
- ② 身体の姿勢：評価3
根拠：全体を通じて姿勢は安定しており、板書時や指示時に前屈や手の動きはあるが不自然な寄りかかりや足組みは見られない（例：01:00 ～ 01:12 板書、12:36 書き終えた後にまとめてカメラを見る等）。
- ③ 顔の向き：評価3
根拠：基本的に生徒（カメラ）方向や板書を交互に向いて説明している。板書ばかりで生徒方向を向かないという印象は少ない（例：00:00 – 00:15 はカメラへ向けて導入、01:12 ～ 01:30 は板書を示しながら視線誘導）。

2. 時間管理（映像測定項目）

- ・④ 板書に使っている時間：評価3
根拠：映像分析は細かく板書と講話の切替を記載しており、板書は頻繁に行われるが一方的に板書ばかりではない（多くの場面で板書→説明→指示の循環。例：01:42 - 01:57 書く→指す、10:24 - 11:00 書いて説明、13:36 - 13:54 消去）。全体の30～50%程度と判断できる。
- ・⑤ 生徒に向かって話している時間：評価3
根拠：講師はカメラ（生徒）に向けて導入・まとめ・要点確認を繰り返している（例：00:00 - 00:10 挨拶とねぎらい、24:00 - 24:20 まとめと激励）。生徒と向き合う時間は十分に確保されている。
- ・⑥ 机間指導の時間：判定不可
根拠：映像は教壇前での授業収録に見え、受講生個別への机間指導の場面は確認できないため判定不可。

3. 話し方

- ・⑦ 話す速度：評価2
根拠：概ね聞き取りやすい速度だが、トランスクリプション中に「あー」「えと」などのつながりや早口に聞こえる箇所があり、専門的説明の際若干速く感じる場面がある（例：00:55 - 01:05, 02:00 - 02:10 の連続説明）。
- ・⑧ 聞き取りやすさ：評価2
根拠：語尾や数式の説明は概ね明瞭だが、話のつながり部分で一部言葉がつぶれる場面・早口で聞き取りづらい箇所がある（例：03:35 - 04:05 の計算説明で音声はやや切れる印象）。
- ・⑨ フィラー語の頻度：評価2
根拠：「えと」「あー」等が断続的に登場するが授業の妨げになるほどではない（例：00:25, 00:55, 01:10, 04:05 など）。
- ・⑩ ポーズ（間）：評価2
根拠：ポイントごとに短いポーズや図示の時間を取っているが、反応確認（問いかけでの待ち）や双方向の確認時間は限定的で、もう少し意図的な間で確認するとより良い（例：05:00 - 05:15 生徒にノート記入促す場面があるが視聴者応答の待ち時間は短い）。
- ・⑪ 口調の適切さ：評価3
根拠：丁寧で安心感のある口調。受験後の労い・激励の言葉もあり、威圧的ではない（例：00:05 - 00:35 「入試お疲れ様でした」「高校生活を応援してる」）。

4. 話の内容

- ・ ⑫ 問いかけ：評価2
根拠：問いかけはある（例：00:45 「じゃあ、まずやってみましょう」→生徒に解き直し促す）が複数回の反応確認（挙手や解答確認）を映像上で明確に待ったり回収したりする場面は少ない。形式的な問いかけが多い。
- ・ ⑬ 褒め言葉：評価2
根拠：導入とまとめで励ましの言葉があり、問題箇所でも肯定的な支持も見られるが、学習行動への具体的なほめ（個人の解法や発言への肯定）は録画の範囲では限定的（例：00:35 「じゃあ、解き直しをね、やって欲しい」には励ましの意図はあるが個別褒めは少ない）。
- ・ ⑭ 叱る場面での対応：評価3
根拠：映像に問題行動や叱責が必要な場面はなく、注意が必要な場面で冷静に指摘する態度が見られる（該当箇所なし→過度な叱責は見られない）。
- ・ ⑮ 新出事項の説明：評価3
根拠：新しい考え方や解法の流れ（例：四番の関数移動や4/5の式の導出など）を手順を追って丁寧に説明している。複数の例・図示を使いながら段階的に解説している（例：00:55 – 02:35 のPに関する説明、08:00 – 12:50 の三角形の面積導出）。

まとめ表（各項目評価）

- ・ 1-① 立ち位置：評価3（00:21, 01:42, 13:36 記録参照）
- ・ 1-② 身体姿勢：評価3（板書や指示時の安定した姿勢）
- ・ 1-③ 顔の向き：評価3（カメラ・板書を適宜向き分け）
- ・ 2-④ 板書時間：評価3（板書と説明のバランス、複数箇所でも板書確認）
- ・ 2-⑤ 生徒に向かって話す時間：評価3（導入・まとめ・要点確認で視線あり）
- ・ 2-⑥ 机間指導時間：判定不可（映像に生徒との机間指導場面なし）
- ・ 3-⑦ 話す速度：評価2（概ね良好だが一部早口）
- ・ 3-⑧ 聞き取りやすさ：評価2（語尾明瞭だが一部つぶれ有）
- ・ 3-⑨ フィラー頻度：評価2（断続的に「えーと」等）
- ・ 3-⑩ ポーズ（間）：評価2（確認の間は取るが対話的確認は限定的）
- ・ 3-⑪ 口調：評価3（丁寧で安心感あり）
- ・ 4-⑫ 問いかけ：評価2（問いかけはあるが回収・応答確認が限定的）
- ・ 4-⑬ 褒め言葉：評価2（励ましはあるが具体的な褒めは少ない）
- ・ 4-⑭ 叱る場面での対応：評価3（該当場面なく、冷静な対応）
- ・ 4-⑮ 新出事項の説明：評価3（手順を追った丁寧な説明。例：00:55 – 02:35、08:00 – 12:50）

改善提案（優先度順）

- ・問いかけと応答の回収を明確に：各重要ポイントで生徒（視聴者）に問いかけた後、意図的に短い「待ち（ポーズ）」を取り、解答や反応を促す（該当：12:55 –13:10 部分での解説の後など）。
- ・話速度と聞き取りやすさの調整：特に計算手順（例：02:00 –04:05 の計算部分）で声を少しゆっくりかつ語尾を明瞭にして、要点を小分けに説明する。
- ・フィラーの削減：説明のつなぎを台詞で置き換える練習を行い、授業の流れをより締める。
- ・褒め言葉の活用頻度向上：生徒の解答・考察を想定して具体的に褒める表現（「ここの着眼点が良い」「計算の工夫ができています」等）を増やす。

参照したトランスクリプションの主なタイムスタンプ（抜粋）

- ・導入・挨拶：00:00 –00:35
- ・Pに関する詳細説明（計算例）：00:55 –04:10
- ・三角形の面積説明（図示と計算）：08:00 –12:50
- ・4番の関数説明（図と傾き算出）：14:50 –19:10
- ・最終まとめ・激励：23:50 –24:20

以上が映像・トランスクリプションおよび映像分析結果に基づく診断評価です。必要であれば、各項目についてのフィードバック用コメント（新人講師向けの台本文例や練習課題）も作成します。

Research:

以下は授業観察・フィードバックに関する一般的な研究・指針の出典例です（参考）。

- ・ Hattie, J. (2009). Visible Learning — 教師のフィードバックと学習効果に関する総説。
- ・ Fisher, D., Frey, N., & Pumpian, I. (2012). Rigorous Reading — 問いかけと応答（「待ち時間」）の重要性に関する教育実践。
- ・ Brookhart, S. M. (2008). How to Give Effective Feedback to Your Students — フィードバック設計の原則。

Important: This report was generated by [Vosaic's AI Mate](#). Please review the video for the accuracy of the report and/or consult with a coach or supervisor about actions that can be taken to improve practice.